

ホノルル市との平和教育交流

～戦争の歴史を乗り越え、次の世代のために～

新潟県長岡市市民部国際交流課総括主査 土田 亜里子

ホノルル市との交流のきっかけ

2007年8月、当時全国市長会副会長であった森長岡市長がホノルル市で開催された日米市長交流会議に出席し、当時のハネマン ホノルル市長と懇談しました。その際に「真珠湾攻撃の指揮をとった山本五十六の出身地である長岡市から来た。五十六は最後まで日米開戦を回避しようとしたにもかかわらず最終的に連合艦隊司令長官として戦争の指揮をとらざるを得なかった。ホノルル市と長岡市の交流が実現すれば世界平和にも貢献できる」と伝え、両市は交流を始めることになりました。

交流の経過

最初は両市の行政関係者や交流団体関係者が相互に訪問をしたり、長岡市の市民訪問団がホノルル市を訪れたりしていましたが、2009年8月に日米友好事業を積極的に推進するため、各界の有識者からなる「日米友好の架け橋実行委員会」を設立しました。翌年2010年8月、同実行委員会と「ハワイ日米協会」との間で、明日を担う人材の育成に力を入れていくことを目的に平和・教育交流調印式を行い、二者が中心となりさまざまな交流を推進して行くことになりました。

また、同年10月には、真珠湾にあるアリゾナ記念館と、長岡市にある山本五十六記念館および長岡戦災資料館の3館が平和・教育交流について連携することに合意し、相互の記念館で、相手国から見た真珠湾攻撃についての展示内容が拡充されました。

現在では、青少年の平和教育プログラムも充実し、長岡市からは大学生と中学生が、ホノルル市からは高校生が相手都市を訪問しています。

そのほかにも、毎年3月にホノルル市で開催され

るホノルルフェスティバルに市民・文化訪問団などを派遣し、地域で受け継がれる伝統文化や地酒などの物産を紹介しているほか、ワイキキビーチ沖で慰霊と平和を祈る長岡花火を打ち上げてきました。

このように幅広い分野でさまざまな交流を積み重ね、2012年3月2日にホノルル市庁舎で姉妹都市友好宣言書が交わされました。本年3月には両市議会が直接交流を始めようと「長岡市議会とホノルル市議会の交流に関する覚書」の調印を行い、交流の幅はますます拡大しています。

青少年の平和教育交流

青少年が相手都市を訪問する際には、先述した記念館・資料館などを訪問するほか、現地の学生などと平和についてディスカッションを行い、戦争の歴史と平和について深く考えたり、同年代同士の共通する関心事などについて話をしながら友情を深めたりしています。

ホノルル市の高校生は、長岡市に来て初めて長岡空襲の事実や多くの犠牲者があったことを学びます。長岡の大学生は、12月7日に真珠湾で開催される追悼



ホノルルフェスティバルのフィナーレを飾る平和への思いの込められた長岡花火



大学生が真珠湾追悼式典に参加

式典に参加し、米国から見た真珠湾攻撃の歴史を肌で感じます。

長岡市の青少年は、訪問を通じて日米国民の戦争に対する精神性の違い、過去の犠牲の上に今の平和を享受できていること、そして自分たちが戦争の歴史を忘れずに伝えていく使命を担っていることなどに気づきます。このように、未来を創る若い世代が平和の尊さを学ぶことは、ホノルル市と長岡市の交流の特徴であり、戦争の悲劇を知る両市だからできることです。

■ホノルル市訪問中学1年生の体験報告から抜粋

・ハワイではいろんな経験をすることができた。私は自分のいた世界の小ささを実感した。日本人は歴史を知ることが勉強することだと思っていなかったらうか。もっと広い世界を見て自分たちの過去や今ある平和を体で感じて考えることができればいいのに、と思った。

・パンチボウル（国立太平洋記念墓地）で献花をした時に、戦争で亡くなられた方々に「二度と戦争はしませんと誓いました。



中学1年生が国立太平洋記念墓地で献花

・同じ戦争で傷ついた都市同士だから今の両市の関係があると知りました。二度と同じ傷を負うようなことをしてはならないことを、自分が伝えて行きたいです。

・日本との考え方の違いに触れ、たくさんの感動や衝撃を受けました。私はこれから英語を学ぶことだけでなく、積極的に行動することを心がけたいと思います。そして、グローバルな視野に立ち、世界のたくさんの人たちと「平和」について考えて行きたいです。

今後の展望

両市長を委員長とする「長岡ホノルル日米友好記念事業委員会」が発足し、2014年8月2日に第1回目の会合がホノルル市のコールドウェル市長、ホールダーマン米国海軍大佐ら出席のもと開催されまし

た。委員会では、太平洋戦争終結から70年を迎える2015年に、両市の関係強化と平和および日米友好の発展を目指し、「未来志



長岡ホノルル日米友好記念事業委員会

向」をコンセプトにして両市を会場にした記念事業を開催することが決定しました。現時点で想定される事業として、①青少年平和交流ワークショップ in 長岡、②青少年平和サミット in ホノルル、③両市の記念館・資料館による合同事業、④長岡造形大学とハワイ大学との交流事業、⑤真珠湾での長岡花火打ち上げなどが挙げられています。

会合では、両市長や米国海軍大佐から、日米間の絆は過去の悲劇を乗り越え大変強固になっている、若者のためにさまざまな交流プログラムを進めるとともに、平和の架け橋を次の世代のために築き上げて行きたい、私たちには平和の大切さや未来への希望を伝えて行く責任がある、という言葉がありました。

上記⑤にあるように、来年8月15日、太平洋戦争終結70年を記念し、真珠湾で慰霊と世界平和を祈る長岡花火を打ち上げようと計画しています。放浪画家と呼ばれた山下清画伯は、1949年に長岡花火を見た後、「長岡の花火」という大作を残します。彼は人々の心に染み入る作品だけでなく、「みんなが爆弾なんかつくらないで、きれいな花火ばかりつくっていたら、きっと戦争なんて起きなかったんだな」という言葉も残しています。

今後、長岡市とホノルル市はさらに姉妹都市交流を強化するため、次の世代を担う青少年を対象とした平和教育交流を基軸に、文化やスポーツなどさまざまな分野での市民交流にも積極的に取り組んでいきます。

<編集部より>

ホノルル市との交流については、自治体国際化フォーラム2014年10月号 (Vol.300) 巻頭言として、全国市長会会長である長岡市長からもご寄稿いただいておりますので、そちらもご覧ください。